

関東大震災における神奈川県足柄下郡片浦村での土砂災害再考

Revaluation of the damage by the landslides at Kataura Village in Kanagawa Prefecture from the 1923 Kanto Earthquake

武村 雅之 [1]

Masayuki Takemura [1]

[1] 鹿島・小堀研

[1] Kobori Res. Comp., Kajima Corp.

関東大震災は土砂災害に関しても明治以降の地震で最大の被害を出し、700-800人の犠牲者を出したといわれている[諸井・武村(2004)]。そのうち半数以上の犠牲者は、熱海線(現東海道線)に沿う神奈川県足柄下郡片浦村(現小田原市)で発生した。米神、根府川で発生した土砂災害として様々なところで取り上げられてきたが、犠牲者の数などまちまちである。そこで、文献資料に現地調査も含めて、被害数を再調査した。用いた文献は、『大正震災志』、『神奈川県震災誌』、西坂勝人著『神奈川県下の大地震と警察』、神奈川県警編『大正大震災火災誌』、『小田原警察署管内震災状況誌』、土木学会編『大正十二年関東大地震震害調査報告書』、鉄道省編『国有鉄道震災誌』で、他に今村明恒(1933)、横山正明(1996)、石田重光(1998)、内田一正(2000)、井上公夫(2006、2008)なども参考にした。

根府川は、東海道線(当時は熱海線)で小田原から熱海方向へ2つ目の駅で、隧道を隔てて手前に、米神集落がある。熱海線は根府川駅を出ると白糸川に掛かる大鉄橋を渡り、約700mで対岸の寒目(かんのめ)山隧道に入る。大鉄橋の下が根府川集落である。

ここで4つの事件が発生した。第一は、根府川駅に侵入してきた真鶴行き下り第109列車が、根府川駅の背後で幅400mにも渡る地すべりに襲われ駅もろとも海中に没した。第二は上り第116列車が白糸川鉄橋の手前の寒目(かんのめ)山隧道の出口で遭難したこと。第三は、本震から約5分後に、白糸川沿い約4km上流の大洞(おおぼら)山から下ってきた山津波で、根府川集落がほぼ全村埋没したこと。第四は、隣の米神集落で、その少し前に、水無川沿いに上流約3.3kmの日向山から下ってきた山津波で集落の半分が埋没したことである。米神集落は真ん中を高さ10m以上もある熱海線の築堤で分断されていたが、この築堤が山津波を食い止め、埋没は山側だけで済んだ。被害状況をまとめると以下のようになる。

(1) 根府川駅背後の地すべりによる下り列車の遭難

根府川駅と第109列車の遭難による死者は131名。その内訳は列車の乗客105名、ホームにいた旅客20名、列車ならびに駅の職員6名である。ただし発見された遺体は5名だけであったというから、上記の犠牲者数の算定は、乗客者数から生存者数をさし引いて求めたものと思われる。列車の乗客数の推定(150名)のいかんによっては、この数はさらに多かった可能性もある。なお、第109列車は、機関車に客車8輛を連結したもので、後部2輛を海岸に残して機関車も含めて海中に没したらしい。

(2) 寒目山隧道での上り列車の遭難

上り第116列車は先頭が寒目山隧道を出て白糸川の鉄橋にかかろうとしていた矢先に地震と遭遇、機関車のみを隧道の外に出して止まった。第109列車とは根府川駅ですれ違うことになっていたこと、目前の鉄橋が本震の揺れで落下したこと、奇跡的な幸運といわれた。犠牲者は機関手と火夫を含む職員6名と乗客若干名(2名以上)である。

(3) 山津波による根府川集落の埋没

山津波による埋没戸数は64ないし67戸、このうち一家断絶が15戸程度。死者は289名、そのうち海岸で遊泳中に行方不明になった児童は約20名である。このほかに根府川では駅付近での埋没が11戸あるが、これが(1)の地すべりによるものとすれば、死者数にもその分が含まれている可能性がある。また山津波の死者として406名、海岸で遊泳中に遭難した児童数72名と記載されることもあるが、前者は片浦村での総死者数、後者は根府川尋常高等小学校に通う児童のうち根府川集落の児童の犠牲者総数74名との取違の可能性が高い。

(4) 山津波による米神集落の埋没

米神集落の埋没戸数は21戸。犠牲者の数は、正寿院の墓地にある「大震災犠牲者追悼の碑」に書かれた犠牲者の名前から、他所で被災した住民を除き、住民62ないし63名と鉄道職員3名と推定できる。死者のほとんどが女子供と老人である。朝からの悪天候のために「雨天正月」と称して、大人の男たちのほとんどが築堤より海側の正寿院に集まっていたためである。

米神、根府川での一連の土砂災害で死亡した人の総数は494名にのぼる。また住民の死者数の合計は352名となる。片浦村での総死者数406名の9割近くが、両地区の土砂災害の犠牲者であった。